

# フクダ電子は医療機器専門メーカーとして皆さまの健康な毎日を応援いたします。

<p>1月</p>  <p>オシドリ 撮影：山梨県北杜市</p> <p>山地や北国の溪流、湖沼畔の大木の樹洞などで繁殖し、秋から冬は平地の湖沼や、木が張り出して覆いかぶさっているような水面で越冬します。昔から夫婦仲の良いことにたとえられて「鶯鶯(えんおう)の契り」や「おしどり夫婦」と言われています。これは、雌雄が寄り添うようにしている姿をよく目にしたからでしょう。</p>	<p>2月</p>  <p>オオワシ・オジロワシ 撮影：北海道目梨郡羅臼町</p> <p>オジロワシは近年、北海道で繁殖する個体が増えましたが、多くはオオワシと共に日本で冬を越すためにカムチャツカ半島方面から渡来する冬鳥です。流水が根室海峡に入ってくると、スケソウダラ漁は佳境に入り、同時にワシの数も急激に増えます。漁船からこぼれ落ちたり、捨てられたりした魚が目当てなのです。</p>	<p>3月</p>  <p>タゲリ 撮影：三重県松阪市</p> <p>冬鳥として渡来するチドリ仲間です。頭頂の長い冠羽がよく目立ち、金属光沢がある背中側の羽は光の角度によって緑色や赤紫色にも見える美しい鳥です。そろそろ繁殖地へ向かう時期になり、冬羽だった羽色が、ますます鮮やかな夏羽に変化します。耕す前の水田に咲いているホトケノザやナズナには負けない美しさです。</p>	<p>4月</p>  <p>アオゲラ 撮影：東京都調布市</p> <p>本州から屋久島までの林に、一年を通して同じ地域に生息する留鳥で日本特産種です。生木のクリやサクラなどの比較的堅い木に、嘴で穴を掘って営巣します。巣穴の大きさは縦6cm、横5cm。どの個体も同じ大きさで、そこで雌雄で協力して子育てします。サクラが満開の中、雄の親鳥はサクラの幹でしばし休憩のようです。</p>
<p>5月</p>  <p>コアジサシ 撮影：東京都府中市</p> <p>オーストラリア方面からやって来る夏鳥です。渡来後間もなく、雄は雌に魚をプレゼントし、それを雌が受け取れば婚姻成立で番になります。写真の雄は、生きの良いアユを雌にプレゼントしているところです。この後砂礫地などに、卵を普通は3個産んで子育てし、9月頃には再び南の海域へ飛んで行って越冬します。</p>	<p>6月</p>  <p>アカモズ 撮影：静岡県 富士宮市</p> <p>南アジア方面で冬を過ごし、日本には夏鳥としてやってきます。「ヂュンヂュンヂュン キチキチ…」と鳴いて縄張りをつくり、ノイバラの繁茂した中などに椀型の巣をつくります。以前は、中部地方の高原や東北地方以北の草原などにごく普通に生息していましたが、現在は減少して姿を見ることも難しくなっています。</p>	<p>7月</p>  <p>コノハズク 撮影：鳥取県八頭郡</p> <p>夏鳥として、九州以北の山深い林などに渡来します。頭頂の左右に耳のように見える羽角(うかく)と呼ばれるちいさな羽毛があることから、「耳が付く」でミミズク。そして、「木の葉に隠れてしまうほど小さなミミズク」という名前の通り、日本で普通に見られるフクロウの仲間の中では一番小さい、可愛いフクロウです。</p>	<p>8月</p>  <p>ヨシゴイ 撮影：新潟県阿賀野市</p> <p>夏鳥として主に東南アジアから、アジが繁茂する水辺に渡ってきます。同じサギ類の中には、日中しか活動しない全身真っ白のシラサギと呼ばれるグループのサギもありますが、本種のように色が付いているグループのサギは夜も活発に活動します。あまり目立たない羽色なので、ハスの花や葉陰にジッと潜んでの狩りも得意です。</p>
<p>9月</p>  <p>シマフクロウ 撮影：北海道目梨郡</p> <p>北海道東部の原生林が残る川沿いや海岸近くに、一年中生活している日本最大のフクロウです。食べ物の多くが魚なので水辺近くで生活しており、カエルや小型哺乳類なども採食します。生息数は非常に少なく、現在は150羽ほどだと言われています。昭和46年には天然記念物に、平成6年には絶滅危惧種に指定されました。</p>	<p>10月</p>  <p>クマタカ幼鳥 撮影：東京都奥多摩町</p> <p>九州以北の森林に生息する大型のタカ類です。頭部に冠羽があることから漢字名は「角鷹」で、精悍な顔立ちなのでクマタカと読ませ、熊の意味も込められているようです。しかし、非常に警戒心が強く、滅多に人前に姿を現すことはありません。数的にはそれほど少ないとは思えないので、臆病者なのかと思ってしまいます。</p>	<p>11月</p>  <p>メジロ 撮影：東京都府中市</p> <p>ほぼ全国に生息していて、北国のものは秋に暖地へ移動します。夫婦仲が非常に良く、繁殖時だけでなく、常に一緒に行動している番も多くいます。ですが、冬は番いで生活するもの以外に、群れになって生活しているものもいます。そういう個体たちはどうも若い個体ようで、そこで良いパートナーを見つけるのかもしれない。</p>	<p>12月</p>  <p>キセキレイ 撮影：東京都稲城市</p> <p>主に日本国内を季節移動する、漂鳥と呼ばれる鳥です。繁殖は九州以北の山地の溪流沿いで行い、ときには高山帯にまで上がります。繁殖が終わって秋になると渡りが始まり、沖縄でもたくさん見られるようになります。冬期は川沿いや湖沼畔などで生活し、小さな小川などにも姿を現します。ヒメツルソバが咲く岩で休憩中です。</p>